

新年のご挨拶

謹んで新春のお祝いを申し上げます。

酷暑、台風、大雨などの異常気象が異常ではなく常態化しそうなほど気候変動は現実のものになってきました。SDGs(国連でわが国も含む世界 193 カ国が同意した 2030 年までの持続可能な開発目標)に見られるように、環境と経済という今までは対立、矛盾するとされてきたものが一体化する、つまり、環境問題にしっかりと対応しないと商売ができなくなり、さらに環境自体がビジネスチャンスになるというゲームチェンジの時代の到来のようです。

手元足元に目を移せば、人口減少、少子化高齢化という社会構造の変化がよりいっそう進展する中、人手不足、跡継不在など喫緊の経営課題も山積です。

地域の暮らしを下支えする私たち地域の中小・小規模事業者は、持続可能な形で地域経済を元気にしていく責務を負っています。単なる規模の拡大や成長を目指しての努力の先に明るい未来が見えにくい今、有効なのは、地域で廻るお金を増やすこと、そして廻るスピードを上げること、つまり「地域経済の循環」だと考えます。このテーマの下に設定した 14 項目の重点施策の実行に、今年も引き続き、全力で取り組んでまいります。

商工会議所の活動の目的の一丁目一番地は会員企業の商売繁盛です。そのお手伝いが商工会議所の最大かつ最重要な責務だと任じております。消費税軽減税率の導入や労働関係法規の改訂、AI や IoT といった技術革新等、対応を迫られる課題が続々と出現してきます。各種相談、専門家派遣、セミナーの開催、制度融資、補助金等の経営支援策を会員の皆さまにとって、もっと分かりやすく使いやすくなるよう引き続き改善を図ってまいります。

加えて、企業の OB と会員企業を繋ぐシニアマッチング、若手の地元就職促進のために合同入社式、障がい者の雇用開発などを通じて、人手不足の深刻化への対応を進めています。事業承継問題については、昨年 12 月に立ち上げた後継者不在企業と創業を希望する起業家をマッチングする「小田原箱根事業承継マッチング事業～襷をつなぐ～」がスタートしました。さらに、行政と自治会と連携しての地域防災、再生可能エネルギーの地産地消、創業支援のためのビジネススクール、ラグビーワールドカップ・東京オリンピック・パラリンピックなどスポーツを地域の活性化に活かす活動等に、6 つの部会、7 つの特別委員会、4 つのタスクフォースと研究会が、活発に取り組んでいます。

わが小田原箱根商工会議所は、今年も「議論して 行動して 結果を問う」姿勢で、小田原・箱根が、働く人にも住む人にも、そして、訪れる人にとっても魅力あるまちになりますように全力で務めてまいります。

この一年が皆様にとって実り多き年になりますこと、そして、この小田原・箱根の地の安寧を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

会頭 鈴木悌介